

## 選考委員のコメント（羽衣学園高等学校）

- 情報化社会における著作権の大切さを認識させていることについて評価する。  
国際的であり素晴らしい授業であると思うが、どの高校でもできるものではない。  
資料としては大変充実している。
- 海外の学校や保護者を巻き込むというダイナミックな活動であるが、どの教師でも同じ内容で指導するためのワークシート等が準備されている点がよい。海外と交流することなどは、どこの学校でも簡単にできることではないと思うので、希望する学校に呼びかけて実践を広げていただきたい。
- 授業のなかで、著作権教育に関する学習活動を生徒がどう工夫し展開したのか見えないし、せっかくの海外との遠隔授業のなかで、著作権に関することがどう展開されたのか整理されていない。
- 情報科と英語科を関連させたユニークな実践であるが、コミュニケーションをテーマとした総合的な実践の課程で、効果的に著作権についての学習を取り入れている。  
レポートは明快で再現性の高い記述であり、また、生徒の感想等により授業が期待した効果を生んだこともうかがい知ることができた。
- 他の教員（情報化担当）と協働した取り組みは、著作権啓発活動としてとても評価できる。  
保護者に対しても著作権指導の情報共有を行なっていてよい。  
大学の学生との交流や外部の講師とのコラボレーションした取り組みは生徒が興味をもつ。  
海外との交流もあり、国を超えてのコミュニケーションは頼もしい。  
著作権の授業というよりも、情報モラル的な内容になっている。
- どの教員でも実践できることを念頭に置いている点が高く評価できる。また、他教科との連携が適切で、インターネットやメディアの光の部分テレビ会議などの実践で十分に体験させながら、影の部分もしっかりおさえる授業構成は素晴らしい。
- 著作権を侵害された人のエピソードを活用することは、とても興味深い。また、英語を用いて海外との意見交換といった点も著作権思想のグローバル化、国際理解教育なども今後連携していけることを考えると、大変意義深い。
- 国際交流の中で著作権を意識した交流を行った点を評価。

インターネットの影の部分だけでなく陽の部分もたくさんあることを踏まえ、生徒も教師も情報活用能力（情報リテラシー）を高めていると感じた。

- 子どもたち自ら著作権についてプレゼンテーションをしていることがすばらしい。  
著作権についてどう子どもが変容したのか見えない。